

SFANEWS





- 🕦 … さらなる女子サッカーの発展を目指して、WEリーグ開幕。埼玉から3クラブが参加し、覇を競う。 😘 … 特集/女子 インタビュー6 埼玉県サッカー協会第4種委員会 少女担当 八谷直樹さん
- ② … 特集/女子 インタビュー1 三菱重工浦和レッズレディースユース 神戸慎太郎監督
- 特集/女子 インタビュー 2 大東文化大学女子サッカー部監督 川本竜史さん
 ① … 特集/女子 インタビュー 3 尚美学園大学女子サッカー部監督 池田浩美さん
- ⑤ … 特集/女子 インタビュー4 本庄第一高校女子サッカー部総監督 日野聡さん 特集/女子 インタビュー5 県立南稜高校女子サッカー部監督 桒山秀家さん
- 🕡 … 成年男子、久々に出場決めるも……第76回国民体育大会関東ブロック大会
- ⑧ ··· 大会記録●県内大会 1種・3種・女子 大会記録●県外大会 1種・2種
- ⑨ … 大会記録●県外大会 2種・3種・女子・フットサル・ビーチサッカー 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18雁ヶ音ビル204号室 Tel048-834-2002・Fax048-834-2004 http://www.saitamafa.or.jp/

さらなる女子サッカーの発展を目指して、WE リーグ開幕。 埼玉から3クラブが参加し、覇を競う。

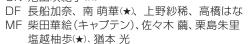
三菱重工浦和レッズレディース

2020年は「なでしこリーグ」優勝、皇后杯準優勝と素晴らしいシーズンを経て、「WE リーグ」に加盟。さいたまレイナス時代を含めて4度もリーグを制した実績を力に、記念すべき初代女王を目指す。



総監督 森 栄次/監督 楠瀬直木

「日本女子代表」経験選手 (★は東京五輪メンバー) GK 池田咲紀子(★)



FW 菅澤優衣香(★)、安藤 梢、清家貴子

第1節 9月12日(日) 味の素フィールド西が丘

日テレ・東京ヴェルディベレーザ 1-2 三菱重工浦和レッズレディース

第2節 9月20日(月・祝)浦和駒場スタジアム

三菱重工浦和レッズレディース 2-0 ノジマステラ神奈川相模原

第3節 「WE ACTION DAY」

第4節 10月2日(土) NACK5スタジアム大宮

大宮アルディージャ VENTUS 1-4 三菱重工浦和レッズレディース

大宮アルディージャ VENTUS

2020年に「なでしこリーグ2部」に昇格した「FC 十文字 VENTUS」を、大宮アルディージャが継承して「WE リーグ」に加盟。ベテラン、中堅、若手と補強も十分に上位を伺う。 VENTUS とはラテン語で「風」。



総監督 佐々木則夫/監督 岡本武行

「日本女子代表」経験選手

GK スタンボー 華

DF 坂井優紀、鮫島 彩、乗松瑠華、有吉佐織 MF 山崎円美、上辻佑実、阪口夢穂

第1節 9月12日(日) ノエビアスタジアム神戸 INAC 神戸レオネッサ 5−0 大宮アルディージャ VENTUS

第2節 9月20日 (月·祝) NACK5 スタジアム大宮

大宮アルディージャ VENTUS 1-1 アルビレックス新潟レディース

第3節 9月26日(日) ユアテックスタジアム仙台

マイナビ仙台レディース 0-0 大宮アルディージャ VENTUS

第4節 10月2日(土) NACK5スタジアム大宮

大宮アルディージャ VENTUS 1-4 三菱重工浦和レッズレディース

ちふれ AS エルフェン埼玉

1985年、狭山市で少女チーム「アゼリア FC」として発足し、地域貢献を第一に進化を続けて「WE リーグ」に加盟。昨年度は「なでしこリーグ」2部で2位。AS の A はアゼリア、S は狭山、埼玉、県西部から。エルフェンはドイツ語で数字の11。



監督 半田悦子

「日本女子代表 | 経験選手

MF 山本絵美 FW 荒川恵理子



第1節 9月12日(日) 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 ちふれ AS エルフェン埼玉 0-3 サンフレッチェ広島レジーナ

第2節 9月20日(月·祝) フクダ電子アリーナ

ジェフユナイテッド市原・千葉レディース 1-1 ちふれ AS エルフェン埼玉

第3節 9月26日(日) デンカビッグスワンスタジアム

アルビレックス新潟レディース 2-1 ちふれ AS エルフェン埼玉

第4節 10月2日(土)熊谷スポーツ文化公園陸上競技場 ちふれ AS エルフェン埼玉 0-3 マイナビ仙台レディース

特集/女子 インタビュー 1

トップチームへのエール

三菱重工浦和レッズレディースユース 神戸慎太郎監督

トップの選手を前にすると目がキラキラさせて いますが、それは今も以前も変わりません。

2005年に「浦和レッズレディ ース」、そして今年から「三菱重 工浦和レッズレディース | となり ました。現在ではトップチームに はアカデミー出身者が半分以上 (25人中15人)昇格し、それが プロになったのですから、本当 に喜んでいます。

WEリーグができたことで、ア カデミーの選手たちにはいい目 標ができました。トップチーム だけでなく、WEリーグのほとん どのチームに私どものアカデミ 一出身者がいます。可能性は大



神戸 慎太郎監督

きく広がったのではないでしょうか。とはいえ、アカデミーの選手た ちは、「WE リーグになったから」ではなく、レッズレディースのトッ プチームを目指して入っています。アカデミーの選手たちもトップチ 一ムに呼ばれて練習する際、トップの選手を前にすると目がキラキ ラさせていますが、それは今も以前も変わりません(笑)。

さてトップチームを指導した時代もありましたので、現所属の選手 たちも安藤(梢)をはじめとするベテランから中堅、若手と多くの選 手をよく知っています。今までの彼女たちを見ていますと、サッカ 一と仕事の両立を求められていました。その中での体調管理、時間 管理というのはそれぞれ大変な苦労があったと思います。それがプ 口となったことで、まだこの2月からではありますが、時間のコント ロールだけでなく、コンディションや精神的なコントロールもできる ようになったように思われます。今までできなかった個人練習をす

るのを見たり、クリニックへの通院をしているという話を聞くと「プ 口になったんだな」思いますし、そういう環境の変化が2021-22 YogiboWEリーグの開幕と共にプレーで表れるのではないでしょう か。とにかく選手全員に期待しています。

森さんのサッカーは難しいんですね。本当にサ ッカー偏差値は高いと思います。まるで(浦和) 一女並みです(笑)

森さん (栄次氏) は今年から総監督ですが、この2年で森さんが植 え付けたサッカー、女子の特性をフルに活かしたサッカーで勝ってく れることを楽しみにしています。決して場当たり的なものではなく、 かみ砕かれた戦術があり、選手たちには達成感、観ている人にも満 足感を与えられるサッカー。それで勝利してくれるはずです。初年度 ですので、当然ながら目指すは初代女王。一度しかない称号ですので、 期待していますし、楽しみにしています。

アカデミーとしては、トップチームのサッカーを継承して、いつで も選手を送り出せるようにしなければならないと考えています。た だ、森さんのサッカーは難しいんですね。本当にサッカー偏差値は 高いと思います。まるで(浦和)一女並みです(笑)。フィジカルも 要求されるし、それ以上に相手ありきの考え方で、相手の逆手を読 む、裏をかく……普段のトレーニングの中でこれらを選手たちに意 識させるのは大変です。ただ、そういう仕事を任せていただけるこ とはありがたいことですので、引き続き、がんばっていきたいと思っ ています。

もう一つ、埼玉県内にWEリーグチームが3チームあることから、 今まで以上に子どもたちから「入りたい」と思ってもらえるアカデミ ーにしていかなければならないとも考えています。サッカーも大事 ですが、サッカーから離れた後、一人の女性として社会に貢献でき る人間形成を目指すところはブレずに指導していきたいと思ってい

特集/女子 インタビュー 2

WE リーグと大学女子サッカーのこれから

~大東文化大学女子サッカー部監督 川本竜史さんに聞く~

学連(一般財団法人全日本大学女子サッカー連盟)の理事長でもある川本監督にWEリーグのスタートへの期待と現状、これからを大学女子 サッカーの状況を絡めて、お伺いました。(聞き手/広報委員 荒川裕治)

関東女子サッカーリーグが通年に

---昨年度、大東文化大学は「第29回全日本大学女子サッカー選手 権大会」でベスト4と躍進されました。遅くなりましたが、おめでと うございます。

川本 ありがとうございます。力があった4年生ががんばってくれた おかげです。ただ、残念ながら今年はそこまでの力がありません。 大学として、継続的強化という取り組みは思うようにできませんが、 学生たちが真面目に取り組んでくれている中での結果でしたね。

――今回は大学の監督として、また学連の理事長というお立場から 「WEリーグ」へエールを送っていただこうと思います。

川本 最初に、なのですが、もしかしたら、この「WEリーグ」のス タートは女子サッカーの関係者の皆さんから見て、思い描いたもの には仕上がっていないのかもしれません。そもそも日本の女子サッ カーの発展を目指し、2023年のワールドカップ招致、2020年東京オ リンピック優勝、そしてこの「WEリーグ」開幕が起爆剤としての三 点セットでしたからね。

ワールドカップ招致断念は残 念でしたが、それでも東京オリ ンピックは期待されていました。 しかし、世界は甘くありませんで したね。確かにコロナ禍の影響 はあったかもしれませんが、そ れは不可抗力です。

「WEリーグ」は9月開幕とな りました。日本のシーズンとはズ レがありますが、世界のカレン ダーに合わせるということは先駆 的であり、チャレンジする意義は あると思います。ただ、それに



川本 竜史さん

よりこれまでの日本の「女子サッカー」のスケジュールが変わります。 昨年度は年内に終えた皇后杯(皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選 手権大会)は、今年度は1月の末か2月にかけてになるでしょう。ここに大学のチームが絡むとなると、大学によっては4年生の出場は難しいかもしれません。そもそも、現状でも過密で……。

―その現状を教えてください。

川本 例えば、今期から「関東大学女子サッカーリーグ」が通年になりました。また10チームから12チームに増えました。それだけでもタイトになったところに、コロナウイルスの感染者増、ワクチン接種…そして台風と続いていますので、多くの試合が延期になっています。それでもリーグ戦はチーム同士の都合で調整できますが、トーナメントはそうはいきません。チームによっては辞退せざるをえないという状況の中で開催しています。

これに関しては、JFA の大会部会も腐心されていますが、代表活動とトップリーグである「WE リーグ」を優先的に組まれるので、我々としては対応が難しいという状況です。

―2チーム増えると4試合増えることになります。また、多くの大学が「関東女子大学リーグ」と共に「関東女子リーグ」にも参戦されており、力のあるチームほどタイトになっているわけですね。

川本 そこに学校のカレンダーとは異なるスケジュールを組まれるのは、結構厳しいのです。

WEリーグの人財供給は大学

—こちらも具体的にお聞かせください。

川本 多くの「WEリーグ」のクラブでは、女性の人材が不足していると聞いています。それも試合運営のスタッフが絶対的に少ないと。そこを補填できるのは、全国の女子の学連スタッフの学生たちです。

もともとクラブ運営に興味があり、クラブに就職したい学生たちにとっては、非常にいいタイミングだと思います。実際このリーグ開幕に向けて、在学中の学生たちがインターンシップとして関わっていることでしょう。彼女たちにとっては本当にメリットがあります。

しかし、学連でも活動している学生は、大学チームにとっても重要な戦力です。彼女たちがまだこちらのシーズン途中で抜けられるのは、これも頭が痛い問題です。

―特に、今年から大学リーグが通年となり、さらに多くの延期試合がある中で、状況をわかっている彼女たちが不在になってしまうと混乱してしまいますね。

川本 そういうことが上手くバランスが取れるといいのですが、今年は特にバタバタしているので、途中で抜けられるのは厳しいですね。

あと、選手として「WEリーグ」に入る選手たちは、シーズン途中のどのタイミングで入ればいいのか? そこが難しいですね。

― それは運営やアカデミースタッフとして入る学生も同じですが、シーズンを走っている中でどう馴染ませるのでしょうか。JSL(日本サッカーリーグ)の晩年も秋開幕でやっていたこともありますが、これも慣れが必要でしょうね。

川本 そうですね。慣れが必要になってくると思います。

もう一つ、大学側として考えなければならないのは、WEリーグもJリーグと同じように所属していたチームに対して「育成費」を支払うことになりました。この「育成費」によって、男子の大学サッカー部は環境改善ができています。しかし、女子はどうなのか?

女子の場合、選手としての"旬"は男子よりも短いと考えられています。結婚したり、出産を望む選手もいるでしょう。となると、自分の"旬"を意識するならば、大学に進学するよりもプロの道に行くのではないかと考えるのです。要は、これから大学を選ぶ選手がいるのかどうか? 大学という回り道をしてでもプロになろうと思うのかどうか?

ちょっと話が逸れるかもしれませんが、2011年のワールドカップで優勝したメンバーのうち、5名が大学サッカー出身でした。それがこの東京五輪のメンバーではゼロです。もちろん、何を重きにおいて選手選考をするのかは監督の考え次第ですけれど、これも考え

させられる数字です。

―男子でも高体連出身とクラブ出身の数、大学卒業者の数などが時 折メディアに出てきますが、女子の数字は初めてお聞きしました。い ろいろ考えさせられますね。

川本 男子はJリーグと大学が上手くいっています。ただ女子はどうなるのか? もしかしたら「大学に育成費を払うくらいならば、大学から選手を取らなくてもいいのでは」という声も出てくるのではないかと危惧しています。

コロナ禍における大学サッカーの変化

---まだまだ直面してないところでも、不安要素があるということですね。

川本 ただ今はWEリーグよりも、現状の課題、新型コロナウイルスへの対応で精一杯です。試合はとにかく無観客です。ただ去年からインカレ(全日本大学女子サッカー選手権大会」)においてライブ配信を始めました。また先程、前期後期と長くなったとお話をした関東大学女子リーグも今年からライブ配信を始めました。今まで観ることができなかった人たちにも観てもらえるようになりました。

彼女たちというか、大学の女子サッカーの露出の仕方を変えざる を得ない状況です。この中でもスポンサーさんが付いてくださった のは大きなプラスです。

―本当はグラウンドレベルで観てもらえると、いろいろなものが伝わるのでしょうが、まだしばらくかかりそうですね。

川本 やはり試合を観てもらうことはありがたいことです。というのは、「無観客」ということで、もう一つ悩みがあるんです。メンバーに入ることのできなかった選手たちも応援できないんですね。そう、「みんなで応援する」ができないんです。これって、学生スポーツの象徴的なシーンだと思いますし、この経験って大事だと思っています。

――そういう問題もあるんですね。

川本 それぞれ各年代で経験すべきことというのがあって、それができていないというのは、取り戻すことが難しいですね。「みんなで応援する」ということが、高校年代で経験できていればいいのですが。ただ、今の高校生たちは経験できていないわけで、それを大学に入ってから経験できるかというと、この現状が続けば難しいとしか言えませんね。また「これが普通なんだ」と思われるのも困ります。

雰囲気って大事ですね。雰囲気が感じられない中では、両チームともクオリティで勝負するしかないんです。ホント、シンプルに技量勝負。声援によって時折見られる"神がかり"的なプレーというのがやっぱり減りますから。

3クラブと共に普及、育成、強化を

―それは男女関係なく、カテゴリー関係なく、の話ですね。少し新型コロナウイルスに関連したお話になりましたが、WEリーグもこの話題は避けて通れません。これから人気をもっと拡大するためには、とにかく試合を観てもらわなければなりませんからね。

川本 その通りです。理事長としての立場では、学連もWEリーグと共に日本の女子サッカー発展に寄与していくということです。また学連としてもWEリーグを支えていきたいと思っています。

— その WE リーグに所属するクラブが、県内には3つあります。

川本 埼玉は女子サッカー部のある大学が多いです。全国的に見ても、これだけの規模感はありません。横だけでなく、縦の交流がしっかりできているのが女子サッカーのいいところですので、ぜひ WE リーグの3クラブとも強化、運営の部分で連携して盛り上げていきたいですね。

まだまだ普及の部分は遅れています。一緒に進めていきましょう。 応援しています。

特集/女子 インタビュー 3

選手にはプロとしての価値を求めたい

尚美学園大学女子サッカー部監督

日本女子代表という存在を知らない私でした

サッカーを始めたのは、本庄 第一高校に入ってからでした。サ ッカー部を志望していたので、 実は入試の時点でサッカーのテ ストがあったんですね。コーン を回るドリブルやリフティングと か。当日に三者面談もあったの で母親もこのテストを見ていた のですが「一番ひどかったよ」と 言われたものです(笑)。

高校を卒業して、田崎真珠に 就職して「田崎ペルーレ」(のちに 「TASAKIペルーレ」。2008年度 で休部) でプレーを続けることが



池田 浩美さん

できました。サッカーを始めてわずか3年。「実業団で続けたい」な んて、恐れ多くて言えなかったのを、母親が日野先生(聡氏。本庄 第一高校女子サッカー部総監督)に相談してくれて決まった話でした。 高校3年生のとき、全日本高等学校女子サッカー選手権大会(第2回) で優勝したのですが、そのときの決勝戦でゴールを決めたことが幸 いしました。

当時はアトランタ五輪を前に日本の女子サッカー界が華やかな時 代でした。1年目はチャレンジリーグでしたがそこで優勝し、入れ替 え戦で「浦和本太レディース」に勝って「Lリーグ」への昇格を果たし ました。

実はその頃でも、日本女子代表という存在を知らない私でした。 当時のLリーグはアメリカ、カナダ、スウェーデンなどから世界の トップクラスの選手、それもFWの選手たちが集まっていました。そ んな中に昇格したばかりの「田崎ペルーレ」は大変でした。私への 指示は戦術とかではなく「90分、あの選手につけ」でしたから。結 果的に守り中心の中で、私がマークしていた選手に点を取られ敗戦 という日々が続きました。試合後、毎回泣いていましたね……。本 当に彼女たちとの1対1はまさに「試練」でした。でも、すごい経験 を積めました。続けていく中で自分のブレーが整理されていくので す。あのプレーは通用した、あのプレーはダメだった、あの間合いは ……DFとしての私なりのセオリーを組み立てることができたのはよ かったと思います。そんな中で女子代表に選ばれてしまったのです。

「強い気持ち」を見せてもらいたい

自分の話が長くなりましたが、今の現役の選手たちを見ると、本 当に技術レベルは高くなったと思います。

また遡りますが、1996年のアトランタ五輪で女子サッカーが正式 種目となり(グループリーグ敗退)、シドニー五輪は出場を逃し、「女 子サッカーバブル」が崩壊していく様を見てきました。特にシドニー 五輪を逃したことには、私たちは責任を感じ、とにかく「環境をよ くしたい」と思ってプレーを続けました。「環境をよくする」ことが、 女子サッカーにつながっている人たちへの責任だと考えていたから です。時代が進み、環境はよくなったと思います。ただ、思い描い ていた状況かというと……。私たちは環境が整っていなくても「サッ カーをやりたい」「上手くなりたい」と、サッカーに対する考え方や 練習の質、熱にこだわってつなげることができたと思っています。

それがアテネ五輪でベスト8、さらに北京五輪で4位に終わった時 点で代表を引退しました。あの3位決定戦、ドイツに負けましたが (0-2) 清々しかったのを覚えています。もうアテネ五輪以上の成績

池田浩美さん(旧姓・磯崎。元日本女子代表キャプテン)

を上げることができたことで、誰もが「自分たちのためにサッカーを しよう」思ったからです。正直、いろいろなものを背負ってきたんだ と思いましたし、それがあったから強くなれましたし、10年近く一緒 にやってきた仲間がいたから乗り越えられたことでした。また冷静 に考えると、上だけ見ていけばよかった時代でもありました。

しかし、2011年の FIFA 女子ワールドカップ (ドイツ大会)で頂点 を極めたことで、それを持続させていくことは大変なことだったと思 います。もともと体格や身体能力では負けてしまう中、日本の良さ である「組織的な動き」はどの国もできるようになってしまいました。 ここからどうレベルアップしていくのか。若い選手たちが中心となっ て、上を目指してくれれば明るい未来が見えてくると思うのです。

サッカーをやるのも、見るのも人間です。「上手い」よりも「強い 気持ち」があるかどうか。「強い気持ち」を見せてもらいたいものです。 さて、WEリーグです。選手の皆さんにはプロとしての価値を求 めたいと思います。プロというのは、人として憧れられる存在です。 立ち振る舞いは本当に大事です。残念ながら、社会的にはいいスタ ートを迎えたわけではありません。だからこそ、若い選手たちが中 心になって、どのようにこの WE リーグの一員であることを受け止め ていけばいいのかを考えてほしいのです。ファンの皆さんが「また応 援したい」と思えるような気持ちを伝えてほしいと思います。

「思い」や「気持ち」を伝えられる選手になってほ しい

大学から見ての WE リーグですか? 大卒ですぐに活躍できる選 手はなかなかいないですね。本学の OG だと林 香奈絵選手 (ジェフ ユナイテッド市原・千葉レディース)がいて、彼女が選手たちにとっ て憧れの選手になっています。毎年10人程度が卒業していく中、半 分は自分で就職先を探し、半分はサッカーを続けています。

どのカテゴリーでも自分たちの目標を掲げて練習に励んでいます。 そこは本当に真剣に、常に全力でやらなければなりません。ただそ れでも結果が出る保証はありません。「自分はがんばった」という選 手もいるでしょう。しかし、その評価は自分がすることではありませ ん。やはり「気持ち」を外に出すこと、味方の選手に力を与えること …… 「思い」や 「気持ち」を伝えられる選手になってほしいですね。

プラス、大学を卒業するということ社会に出ることです。人柄が サッカーに出るんです。しっかりとした人間性を持っていないと、ど こかに隙が生まれてしまいます。社会人として当たり前のことができ るよう指導しているつもりです。

最後に、また自分の昔話になりますが、初めて女子代表に呼んで くれたのが、当時監督だった宮内さん(聡氏・ちふれ AS エルフェン 埼玉代表取締役会長。元日本代表) でした。「プリマハム FC くノー」 の監督だった宮内さんは日野先生のところによく顔を出していて、も う少しで私もお世話になるところでした。代表の初合宿、実はイヤ でイヤでしょうがありませんでした。とにかく私が下手でしたから恥 ずかしくて。息を殺して、当たり障りなく静かに過ごそうと思ってい ました。でも、そんな私に宮内さんは「サッカーが上手いとは思って いないが、人に対して寄せる、奪うという1対1の強さとボールに対 して怖がることなく突っ込んでいく勇気は一番素晴らしいと思ってい る。日本が世界で戦うための武器になる」と言ってくれたのです。で すから私も、選手たちには「自分のいいと思うところを磨きなさい」 と言っています。昔は、選手個々に特徴があり、武器があり、そう いう選手たちで「組織」になっていました。一緒にプレーしていても 面白かったですね。

WEリーグが選手たちにとって、人生を賭けられる場になってほし いと願っています。

特集/女子 インタビュー 4

強化にはもっと底辺拡大を

11 クラブあることを知らない子どもたち

本当にWEリーグには成功してほしいですね。そのためにはまず観てもらうことが必要ですね。とにかく今は、もっと上手く宣伝をしてほしいものです。

というのは、今の女子高校生たち、ウチの選手たちは埼玉にWEリーグのクラブが3つあることは知っています。しかし、WEリーグが11クラブあることは知りません。また、WEリーグでプロになりたいかと聞いたこともありますが、残念ながらゼロでした。

彼女たちにとって、WEリーグがまだ目標になっていないのです。なぜなら、まだまだWEリーグそのものが見えていないからです。失礼かもしれませんが、WEリーグのクラブに誘われた選手が10人いたら、その中で9人は「大学へ行く」というのではないでしょうか。指導者の多くは「大学卒業してからでもいいのでは」とアドバイスするでしょう。キャリア形成を含めて、「見えてこない」のです。

ただ、それでもサッカーでがんばりたいという選手たちはいます。少しずつですが増えてきています。8月5日に私が実行委員長を務める「Lega student」では関東女子学連(関東大学女子サッカー連盟)と組んで「合同トライアウト」を開催しました。全国から高校生と大学生が48名参加してくれて、大学と企業から32チームも集いました。男子と違い、女子は全国的なスカウト網がありません。積極的な交流で選手たちがサッカーを続けていけるお手伝いができれば幸いです。来年以降もこのような場を提供して、つなげていきたいと思っています。

日本の女子サッカーは今のままでは世界で勝つことは難しいでしょう。世界的に見て、どの国でも個人技術は進歩し、チーム戦術の

本庄第一高校女子サッカー部総監督 日野 聡さん

レベルも上がっています。その上で世界は体力、パワー、スピードで勝負しようとしています。残念ながら、日本はこれらの部分で進んでいません。海外の選手たちを見ると、その体格は「アスリート」そのものです。もうテクニックだけでは通用しないんです。

そのためには強化です。もっと底辺を拡大しないといけません。これまでなでしこリーグから日本女子代表というルートがありました。ただ、日本女子代表もU-15で一度入るとそのまま



日野 聡さん

U-18、そして代表へとそのまま選ばれていく傾向が強いですよね。それだけじゃない。能力を持った選手はたくさんいるんですよ。来年度の栃木国体から少年女子(U-16)がようやく始まります。いろいろな選手を見ることができるでしょう。ただ、正直な意見を言わせていただければ、女子を18歳以上、18歳以下にわけて隔年で開催するほうがいいのではと思っています。そうすると2年準備できますからね。そういうのも強化につながると思うのです。

とにかくWEリーグのチームには自分たちの力を見せてほしいと思います。リーグも楽しみにしていますが、その存在、そのレベルの高さを示すのは「皇后杯」かもしれません。「なでしこリーグ」のチームから「さすが」と言われる試合することで、より認められていくと思います。

特集/女子 インタビュー 5

「心の体力」を付け、WEリーグを目標に

南選手の「一つひとつ積み重ねて、気づいたら日本代表でした」に感銘

2011年、南稜高校へ赴任した際にラグビー部が無かったものですから、女子サッカー部の顧問となり、翌年監督として指導するようになりました。あれから10年。ようやく県高校総体で優勝することができました。

実は GK として高校の途中までサッカー部にいました。濱名 先生 (哲也氏・JFAサッカー 1級審判インストラクター) に指導していただきましたが、ラグビー部に移籍することになり、ラグビーで大学に進学しました。



桒山 秀家さん

以前から、これからの日本のスポーツにはフィジカルをしっかり指導できる人材が必要だと考えていました。そんな中で、ほとんど素人ばかりの女子サッカー部を指導することになり、彼女たちの走り方の悪さ、猫背などを最初に改善することにしました。具体的には帝京平成大学の砂川憲彦教授が提唱する「母指球ファンダメンタルトレーニング」を導入して、技術とともに、将来のための身体づくり

県立南稜高校女子サッカー部監督 桒山秀家さん

も行いました。

私自身も絶対的にサッカーの経験が少なかったものですから、三郷工業技術高校の木戸先生をはじめ、外部の方に指導していただいたり、いろいろな学校に練習試合を組んでいただいたりと、様々な方にご協力をいただいてここまで来ました。本当にこれまで関わっていただいた皆さんのおかげであり、感謝しています。

先日、卒業生の南萌華選手(浦和レッズレディース。日本女子代表)が来校し、選手たちに講演をしてくれました。彼女はジュニアユースからレッズでしたが、実は3か月ほど、部活全入制度のため、在籍していたことがあり、数回練習にも参加していました。その時の彼女のプレーは、将来代表に選ばれると思うほど、印象に強く残っています。

彼女が生徒に話をしてくれた言葉の中に「上手い選手ではないので、だから努力する」というのがありました。代表チームのレギュラーになっても「まだ、自分の理想にはたどり着いていない」というのです。振り返れば、彼女はサッカーも勉強も一生懸命でした。そして謙虚でした。「一つひとつ積み重ねて、気づいたら日本代表でした」と。そういうところは、見習ってほしいですね。

実のところ、今の自分に満足してしまう高校生は多いんです。かつ、常に男子は全力を尽くすのですが、女子はなかなか自分の100%を出してくれません。私は「心の体力」と言っていますが、もっと経験を積むことで育んでほしいものです。

さて、WEリーグの各クラブには期待しています。ただ、南稜高

校の部員たちは3種年代で強豪と言われるチームから来た選手はい ません。ですから、WEリーグの選手たちのことを「かっこいい」と か「すごいな」とは思っていますが、自分たち自身があの舞台に到 達するイメージを持っていないのが現状です。でも、目指してほしい なと思っていますし、いい目標ができたと思っています。そのために も WE リーグの試合を観る機会を増やし、ぜひ南選手の横断幕を作 りたいとも考えています。

ただ「プロ」という目標を立てる前に、関東大会の先にある全国 大会に出場し、同世代のレベルの高い選手たちと試合をすることで、 将来的にいい影響を与えられると思います。まだまだ時間がかかる かもしれませんが、コーチの小椋大先生と共に、私たちなりに裾野 を広げながら、地元戸田市の皆さんと共に底上げをしていきたいと 思っています。そして、南稜高校を卒業した後、いろいろな形でサッ カーに関わってくれる人材を多く送り出したいと思っています。

特集/女子 インタビュー 6

選手の露出を、そして地域貢献を

埼玉県サッカー協会第4種委員会 少女担当 八谷直樹さん (川越女子ジュニアサッカークラブ代表・監督)

子どもよりも、保護者へのアピールが大事かもし れません

WEリーグが始まるこ とによって、子どもたちに とって「目標」として、プ 口選手たちがいるという 状況になったと思います。 OGにはWEリーグ所属 の選手はいますし、今回の 「なでしこジャパン」であ れば、塩越柚歩(浦和レッ ズレディース) がそうです。 ただ、始まってみないと



八谷 直樹さん

子どもたちにとって、「自 分たちの目標」になるかどうかはイメージできないと思います。また、 小学生年代の子どもたちにとって、一つ先ではなくさらに先の話で すから、やや遠いという感はあります。また、レッズのハートフルク ラブを見ていても、子どもたちにとってコーチの皆さんはまだまだ 遠い存在です。「コーチはレッズレディースの OG なんだよ」と言え ば、「あーっ!」とか「すごかったの?」と声をかけています。しかし、 説明しなくても、そういう子どもたちが増えてきてくれるといいです ね。まだまだ競技人口は少ないですから、選手たちの露出が増えて くれればいいと思っています。

近年感じることは、高校時代にサッカーをしていたというお母さ ん方の子どもが入ってきてくれるようになりました。これは画期的な ことです。女子サッカーの盛り上がりは、サッカーをしていたお母さ んたちを刺激してくれるのではないでしょうか。もしかしたら、裾野 を広げるには、子どもに直接アプローチするよりも、保護者へのア ピールが大事なのかもしれません。

以前から、お父さんがサッカーをしていたので「娘にも」と入って くれた子どもはいます。それが「お母さんが」となると、そのお母さ ん方が少年団やチームの指導者として関わっていただける可能性も 出てきます。やはり女性の指導者が増えてくれることが急務で、連 盟など組織としても活性化されると思います。

女の子たちがサッカーを始める、続けるというのは、まだまだハー ドルが高いと思います。それをお母さんたちが「道」を作ってくれれ ばというか、これからの環境整備を考えるとお母さんたちのご協力 は不可欠だと考えています。「サッカーは楽しいんだよ。やってごらん」 と背中を押してくれるだけでもいいのです。実際、サッカーを「やり たい」子どもたちが、なかなか「やりたい」と言える環境ではなくな りつつあります。トップの選手たちの露出が少なくなると、バスケッ トボールやバレーボールを選択してしまうケースがあるのですから。

繰り返しになりますが、以前のブームを支えた選手たちがお母さ んたちにアピールしてほしいですね。「懐かしい」と思ってくれるコミ ュニティはあります。女子サッカー全体で WE リーグを盛り上げて いただきたいと思っていますし、私もお手伝いさせていただきます。

あと、WEリーグでは毎節「WE ACTION DAY」として、試合の ないクラブが活動すると聞いていますので、埼玉の3チームが具体 的な活動をされることを期待しています。例えば、新型コロナウイル スが落ち着いてからになるかと思いますが、U-12を対象にしたサ ッカー教室や、3チームのアカデミーが枠を越えた交流をしてくれる と県内ではいい刺激になるでしょう。

でも、一番は OG の選手たちが出身チームに顔を出してくれるこ とです。埼玉県出身の選手は多いので、そういう「地域貢献」も期 待しています。WE リーグ、楽しみです。

特集/女子 インタビュー 7

国体「少年女子」スタートに向けて

埼玉県サッカー協会女子委員会 委員 同技術委員会 育成・普及部会 長谷川暁雄さん (県立久喜高校女子サッカー部監督)

県トレセンの現状と今後のスケジュール

2022年開催予定の栃木国体から「少年女子」というカテゴリーが 開設されます。「少年男子」と同じ、U-16年代の選手たちの大会が 始まります。これにより、従来からある「成年男子」と「成年女子」 が隔年開催となります。

さて、この「少年女子」開設にあたり、県内における育成年代のト レセンを見直しています。U-13、14、15、16と4つのカテゴリーに 分かれて「県トレセン」を開始しています。各カテゴリーにはチーフと サブ、指導者を2名配置しています。今後は選手と共に指導者も「持 ち上がり」になるよう配置することを検討しています。現状、常時 10名とサポートとして私が関わっているところです。今回も国体関

東ブロック大会に帯同していただいた福島巌先生(蓮田松韻高校) がU-16のチーフとして、また来年度の栃木国体を目指すU-15に は堀達也先生(大宮武蔵野高校)にお願いしているところです。

現状、浦和レッズレディースユースの選手たちの多くは関東トレセ ン、さらにはナショナルトレセンに招集されており、県トレセンには 参加していません。イメージとしては、2月、3月で国体に参加資格 を持つレッズレディース、同ユースの選手たちと県トレセンU-15が 合流することでラージグループを作って選抜。4月以降の関東トレ センリーグに挑み、国体関東ブロック大会を戦うという予定です。

「女子」の強化も大学、WEリーグ3クラブと共に

この流れで、2年に一度となる「成年女子」の強化も進める必要が

ありますが、そこで大学のチームとどう絡んでいくのかが課題になっ ています。今年から大学のリーグ戦が前期、後期と年間を通したも のになりましたので、日程的にタイトになったことで練習会を組むこ とが難しくなっています。

またこれまで埼玉の国体チームの中心になっていただいた浦和レ ッズレディース、同ユースには、引き続きご協力をいただけることに なっています。もちろん、ちふれ AS エルフェン埼玉、大宮アルディ ージャ VENTUS にも加わっていただき、「埼玉」としての協力体制 を整えていきたいと考えています。WEリーグ開幕をきっかけにして、 各カテゴリーが連携して女子の強化をしていけるよう、関係性を深 めていきたいものです。

なお、今年の関東ブロック大会に関しては浦和レッズレディースユ 一スの選手たちに出場してもらいました。他県は大学生、社会人が中 心で編成されている中、参加チーム中では最も平均年齢が若いチーム でした。初戦の神奈川県戦は彼女たちのテクニカルな強みが発揮さ れて完勝を収めることができました。ふだん関東リーグでは大学生を 相手に試合をしていますが、いざ連戦となると体力的に難しく、代表 決定戦、敗者復活戦で連敗してしまいました。個々のレベルは高いだ けに、年齢バランスを考えたチーム作りが必要だと反省しています。

他のカテゴリーではありますが、今回の関東ブロック大会では、「成 年男子」が予選を突破しました。残念ながら本大会が中止なってし

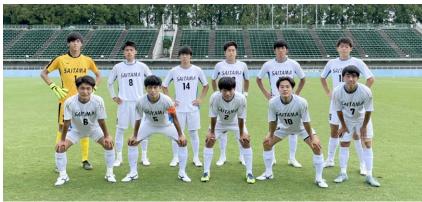
まいましたが、吉田弘監督(尚 美学園大学サッカー部総監督) が一つの形を示してくれたと思 っています。本大会に出場すれ ば、対戦相手はJFLや地域リー グの強豪たちです。そんな中で 活躍できれば、卒業後の進路も 変わってきます。次のステップを つかむチャンスになるんだという ことがわかれば、選手たちのモ チベーションは上がるでしょう。 2023年からスタートする「成年 女子」も「成年男子」同様に強化 を進めていくことができればと 考えているところです。



この場をお借りして、お願いがあります。まだまだ女子のトレセン スタッフは足りていません。またJFA からの指導により、指導者ライ センスも必要になったことで、携わっていただける方が限られていま す。また昨年度から女性指導者を対象としたC級ライセンス講習会も 始めていますが、まだ認知度が低いのが現状です。女子の指導経験 をお持ちで、興味のある方はまずはご連絡をいただければ幸いです。

成年男子、久々に出場を決めるも 第76回国民体育大会関東ブロック大会

8月21日から栃木県内において「第76回国民体育大会関東ブロック大会」が開催さ れました。結果的に成年男子は2013年の東京国体以来の本大会出場を決め、女子は 敗者復活戦に挑んだものの残念な結果に終わりました。 ただ、第76回国民体育大会 「三重とこわか国体」(9月25日~10月5日)新型コロナウイルス感染拡大の恐れがあ ることから中止となってしまいました。改めまして、選手・スタッフ、そして関係者の皆 さん、お疲れ様でした。引き続き、各自のステージでご活躍されることを期待しており ます。



埼玉県 成年男子



埼玉県 女子

●成年男子

1 回戦 群馬県 埼玉県 (3PK5) 代表決定戦

※関東からは、茨城県、埼玉県、千葉県が本大会出場(中止)

(4PK3)

監督	吉田	弘	尚美学	園大学
背番号 位置		名	前	所属チーム
1	GK	髙橋	千寛	尚美学園大学
2	DF	吉澤	翔	埼玉工業大学
5	DF	齋藤	翔瑠	尚美学園大学
6	MF	小河原龍太		城西大学
7	MF	桜井	潤人	共栄大学
8	MF	加藤	佑弥	平成国際大学
9	MF	阿部	駿	平成国際大学
10	MF	大島	龍斗	尚美学園大学
11	FW	木澤	拓郎	共栄大学
12	GK	原	佑弥	城西大学
13	FW	上原	賢太郎	埼玉工業大学
14	MF	川﨑	廉	城西大学
15	MF	右近	正人	城西大学
16	DF	臼倉	雄生	共栄大学

●女子

埼玉県 1回戦 神奈川県 0-3 代表決定戦 東京都 3-0 埼玉県 敗者復活戦 山梨県 2-0 埼玉県 ※関東からは、群馬県、東京都、山梨県が本大会出場(中止)

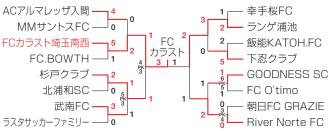
監督	神戸	慎太郎 浦和	レッズレディースユース
背番号	位置	名前	所属チーム
1	GK	山﨑 琳	浦和レッズレディースユース
2	DF	大森 星奈	浦和レッズレディースユース
3	MF	髙橋 光莉	浦和レッズレディースジュニアユース
4	DF	塚崎 萌美	浦和レッズレディースユース
5	DF	平中 響乃	浦和レッズレディースユース
6	MF	竹田 真菜	浦和レッズレディースユース
7	MF	野原歩乃果	浦和レッズレディースユース
8	MF	角田 楓佳	浦和レッズレディースユース
9	FW	西尾 葉音	浦和レッズレディースユース
10	DF	西村 紀音	浦和レッズレディースユース
11	MF	丹野凜々香	浦和レッズレディースユース
12	MF	新井みゆき	浦和レッズレディースユース
13	MF	江口 祐加	浦和レッズレディースジュニアユース
14	MF	今野 真帆	浦和レッズレディースユース
15	FW	岡田 優奈	浦和レッズレディースユース
16	GK	笹川すみれ	浦和レッズレディースユース

大会記録●県内大会

1種・社会人

第28回全国クラブチームサッカー選手権埼玉県大会

6月6日~8月8日 SFAフットボールセンター他

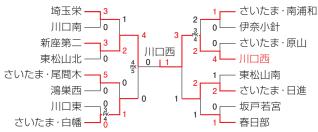


※優勝したFCカラスト埼玉南西は初優勝。関東大会に出場

3種・中体連

令和3年度学校総合体育大会中学校サッカーの部

7月17日~30日 浦和駒場スタジアム他



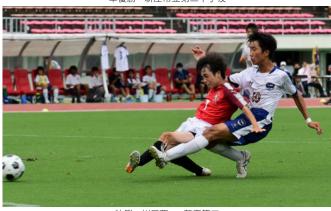
※優勝した川口市立西中学校は初優勝。準優勝の新座市立第二中学校と共に関東大会に出場



優勝 川口市立西中学校



準優勝 新座市立第二中学校



決勝 川口西 vs 新座第二

女子

第43回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会埼玉県予選 兼第41回埼玉県女子サッカー大会

※優勝した東京国際大学は関東大会に出場

尚美学園大学

大会記録●県外大会

1種

天皇杯JFA 第101回全日本サッカー選手権大会

7月7日 浦和駒場スタジアム

3 回戦 **浦和レッズ 1-0 SC相模**原

8月18日 たけびしスタジアム京都

ラウンド 16 京都サンガF.C. 0 - 1 浦和レッズ

2種・高体連

令和3年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

8月14日~22日 テクノポート福井総合公園スタジアム他

1回戦 神村学園高校 3-0 正智深谷高校

※優勝は青森山田高校



正智深谷高校





1回戦 正智深谷 vs 神村学園

令和3年度全国高等学校定時制通信制体育大会 第31回サッカー大会

7月31日~8月3日 IAIスタジアム日本平他

1回戦 県立学悠館高等学校(栃木) 0-0 日々輝学園高等学校

(5PK4)

県立吹上秋桜高等学校 不戦勝 倉敷市立倉敷翔南高等学校

ラウンド 16 秀英高等学校(神奈川) 1 - 1県立吹上秋桜高等学校 (4PK2)

※優勝は県立浜松大平台高等学校(静岡)

クラブ

第45回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

7月25日~8月4日 正田醤油スタジアム群馬他

●グループステージ

Cグループ 大宮アルディージャ 2-3 ジュビロ磐田 大宮アルディージャ 2-1 ツエーゲン金沢

大宮アルディージャ 1-1 京都サンガF.C.

※大宮アルディージャはグループ3位

Hグループ 浦和レッズ 0-3 カマタマーレ讃岐

浦和レッズ 3-0 アルビレックス新潟

浦和レッズ 2-0 ベガルタ仙台

※浦和レッズはグループ2位でノックアウトステージ進出

●ノックアウトステージ

ラウンド 16 ガンバ大阪 0-2 浦和レッズ 準々決勝 浦和レッズ 1-1 FC東京 (3PK1)

浦和レッズ 1-2 名古屋グランパス 淮沖滕

※優勝は名古屋グランパス

第28回全国クラブチームサッカー選手権大会関東予選

9月18日・19日 千葉県各地

FCカラスト埼玉南西 1-1 東急SレイエスFC 1回戦

(4 PK 2) FCカラスト埼玉南西 1 – 2 習志野シティFC

代表決定戦

※代表は三菱養和サッカークラブと習志野シティFC

3 種·中体連

第52回関東中学校サッカー大会

8月7日~9日 千葉県各地

1回戦 川口市立西中学校 0-2 修徳中学校

> 暁星中学校 0 − 0 新座市立第二中学校 (4PK5)

0 - 0

準々決勝 桐生大学付属中学校 新座市立第二中学校

富士吉田市立下吉田中学校 進決勝 0 - 1新座市立第二中学校

(延長)

決勝 晚星国際中学校 1-0 新座市立第二中学校

※新座市立第二中学校は準優勝。優勝は暁星国際。上位7チームが本大会

に出場

令和3年度全国中学校体育大会第52回全国中学校サッカー大会

8月19日~23日 JITリサイクルインクスタジアム他

1回戦 新座市立第二中学校、出場辞退 ※優勝は神村学園中等部(鹿児島)

3種・クラブ

第36回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

8月15日~24日 帯広の森陸上競技場他

●グループステージ

Iグループ 浦和レッズ 3-2 FC岐阜

浦和レッズ 1-0 エベイユFC神戸

浦和レッズ 0-1 サガン鳥栖

※浦和レッズはグループリーグ2位でノックアウトステージ進出

●ノックアウトステージ

ラウンド32 浦和レッズ 2-1 大阪市ジュネッス **浦和レッズ** 2-2 名古屋グランパス (4 PK 5) ラウンド16

※優勝はFC東京むさし

女子

第43回関東女子サッカー選手権大会 兼

皇后杯JFA第43回全日本女子サッカー選手権大会関東予選 9月4日~19日

1 回戦 浦和レッズレディースユース 0-0 日テレ東京ヴェルディメニーナ (3PK4)

東京国際大学女子サッカー部 0-0 神奈川大学 (3PK5)

大東文化大学 0-3 FCふじざくら山梨

※優勝は日テレ・東京ヴェルディメニーナ。上位7チームが関東代表として 全国大会に出場

XF CUP 2021 第3回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)

8月2日~9日 アースケア敷島サッカー・ラグビー場他

●グループステージ

A グループ

三菱重工浦和レッズレディース 2-2 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

三菱重工浦和レッズレディース 6-0 清水FC女子

三菱重工浦和レッズレディース 0-2 マイナビ仙台レディース

※三菱重工浦和レッズレディースユースはグループ3位。下位トーナメン トで優勝

Cグループ

ちふれASエルフェン埼玉マリ 3-0 FC今治レディースNEXT

ちふれASエルフェン埼玉マリ 0−1 AC長野パルセイロ・シュヴェスター

JFAアカデミー福島 2-1 ちふれASエルフェン埼玉マリ

※ちふれASエルフェン埼玉マリはグループ2位でノックアウトステージ 進出

Dグループ

1FC川越水上公園 10-0 クラブフィールズ・リンダ

1FC川越水上公園 8-0 福山ローザスレディース

日テレ·東京ヴェルディメニーナ 2-0 1FC川越水上公園

※1FC川越水上公園はグループ2位でノックアウトステージ進出

●ノックアウトステージ

準々決勝

マイナビ仙台レディース 1-0 1FC川越水上公園

横須賀シーガルズJOY 2-1 ちふれASエルフェン埼玉マリ

※優勝はJFAアカデミー福島

フットサル

JFA 第 8回全日本 U-18フットサル選手権大会関東大会

6月26日~7月10日 千葉県

●1次ラウンド 正智深谷高等学校 1-8 バルドラール浦安 テルセーロ

正智深谷高等学校 2-5 桐生第一高等学校

※正智深谷高等学校は 1 次ラウンドで敗退。優勝はバルドラール浦安 テ ルヤーロ

ビーチサッカー

JFA 第16回全日本ビーチサッカー大会関東大会

7月17日~25日 千葉県

1回戦 If Levante Futebol Clube 2 - 7 SONNE OZEAN

湘南スプレッド1545 10-1 If Levante Futebol Clube ※優勝は東京ヴェルディビーチサッカー。上位3チームは本大会へ

【大会中止】

第17回全日本大学フットサル大会

JFA バーモントカップ第31回全日本 U-12フットサル選手権大会

2021 フジパン CUP 第45回関東 U-12 サッカー大会 8月28日、29日



「東京2020大会」が終了し、「WE リーグ」が開幕しました。この110 号では WE リーグへのエールとして、少女~大学の指導者の皆さまに 様々な想いをお話いただきました。リーグの継続発展を願い、そして 埼玉県から3チームが参加している現状で埼玉県女子サッカーが一層 熱を帯びることへの期待が込められています。ぜひご一読ください。

9月末日をもって緊急事態宣言が全面解除となりました。しかし油断

は禁物です。感染症予防と拡大防止対策はこの後も続きます。振り返 れば前年から幾多の大会が中止に、そしてチームの活動が自粛に追い 込まれてきました。各カテゴリーにおいて、大会への出場辞退を余儀な くされたチームがいくつもありました。かけがえのない目標となる大会 が通常開催に近づけるよう、なお一層のご協力をお願いいたします。

(藤田)